

第3回 第2次静岡市総合計画懇話会会議録

1 開催日時 平成21年8月27日（木） 午前10時00分～

2 開催場所 静岡市役所新館8階 市長公室

3 出席者 〈出席委員〉

佐藤会長 佐竹副会長 松浦委員 杉山委員代理（五十嵐）

榎本委員代理（青山） 尾崎委員 佐藤（京）委員 市川委員

河合委員 小野寺委員 上利委員 澤野委員

須藤委員 岩邊委員

〈欠席委員〉

望月委員

4 傍聴者 3名

5 会議内容

○経営企画部長 お忙しい中御出席をいただきましてまことにありがとうございます。ただいまから第3回第2次静岡市総合計画懇話会を開催いたします。

開会に当たり、市長から御挨拶申し上げます。

○市長 皆さん、おはようございます。

本日は第2次静岡市総合計画懇話会ということでお集まりいただきましてありがとうございます。きょうは専門委員の先生方にも同席していただいておりますので、また活発に御議論いただきたいと思います。

まず先月、市内6カ所でタウンミーティングを開催いたしまして、皆さんにも御参加をさせていただいたと思いますが、感想としては、参加者が少なかったということだと思います。人口の割に一番多かったのは、やはり蒲原地区だったのかなというふうに思います。ちょうど5年前、同じようにタウンミーティングを市内各地で行ったことを私も覚えておりますが、当時はまだ平成16年で、合併して1年目だったものですから、特に清水地区では参加者が多かったのを今でも覚えてます。合併に対する不安がかなりおありだったんだと思います。合併直後でいろんな問題に対する御質問、意見が多かったことを今でも覚えております。今回5年経ちまして、いろんなことが落ち着いてきて、お互いに慣れてきたせいもあるのかなというふうには思っております。

その中の主な意見としては、子どもを安心して育てることのできる環境の整備、あるいは歩行者や自転車が安全に行き交える道路網の整備、あるいは観光交流戦略の強化、また市民の役割に

についても具体的に示すべきである等。いい意味での市民参加ということだろうというふうに思いますし、人口減少社会に対応し、やることや制限することも計画に盛り込むべきであるということ等、いろいろな御意見がありました。

本日も、前回に引き続いて第2次静岡市総合計画のテーマと、それを実現するための戦略について御協議いただくことになっております。基本構想における目標としての都市像「活発に交流し価値を創り合う自立都市」を実現するためにも、委員各位におかれましては多方面からの検討を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

なお、今、財政のほうもこの先22年から26年まではある程度の財政フレームを想定をして、この専門委員の皆さんの御意見、あるいはタウンミーティングの御意見に沿うような事業の組み立てを徐々に各局からやっておりますが、来るべき今度の総選挙におきまして、だいぶ今までの国の制度のあり方とか、地方にかかわる税制も大幅に変わるようでありまして、例えば昨日もちょっと話題になったんですが、暫定税率を22年度から廃止をするということでありまして、もう直接静岡市の財政に毎年50億減ということにはね返ってきますので、それがどうやって決定されるかわかりませんが、非常に大きないろんな諸制度の変化の中で、我々もこれから行政をしていかなきゃいけない。大きな時代に置かれてるんだろーと思います。

しかし、地方自治体のまちづくりっていうのは、やはりきちっと方針を持ってやっていかなければいけないし、そうでないと都市間競争に勝てないということは事実でありまして、皆さんにはいろんな御意見やお知恵を拝借してやっていきたいと思っております。きょうはよろしくお願いいたします。

○経営企画部長 本日は望月委員が御欠席です。また杉山委員の代理として清水商工会専務理事の五十嵐様が、榎本委員の代理として静岡市農業協同組合専務理事の青山様に御出席をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。また本日は原案検討会議において公募市民の皆さんとともに、6分野に分けて活発な御議論を行っていただいております専門委員の皆様、総論分野の日詰委員、健康・福祉分野の松平委員、文化・学習分野の猿田委員、生活環境分野の水谷委員、産業・経済分野の岩崎委員、都市基盤分野の川口委員が出席をしております。よろしくお願いいたします。

それではここからの進行は佐藤会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○佐藤会長 皆さん、こんにちは。だいぶ朝晩しのぎよくなりましたけれども、お忙しい中、委員の皆さんと専門委員の皆さん、お集まりいただきましてまことにありがとうございました。

きょうは第3回ということですが、第2回的时候には、第2次総合計画の各論にわたる議論を

皆さんからちょうだいしました。その中では特に戦略プロジェクトをめぐっての議論でございましたけども、本数の問題であるとか、あるいは中身について大変厳しい、しかし真摯な声をちょうだいしたと思っております。きょうはそれらを踏まえて、さらに皆さんの御意見をちょうだいしたいと思っております。

今、市長のお話にもありましたように、経済社会や行政、市民生活の面で私たちは今大変厳しい状況の中で、生活をするという場面に立っております。しかしこの懇話会は総合計画について、静岡の将来を皆さんの知恵を寄せ合って語り合うということですので、いわば夢を私たちがどう語り、そして子々孫々まで静岡市をどう継承、発展させていくかということをめぐる貴重な意見交換の場だと思っております。日ごろ現実の厳しい生活の中では、なかなか夢とか希望を語るにはややたじろぐ状況もあるわけですが、きょうは皆さんぜひそれぞれの立場で存分に夢を語り合うということで、よろしく願いいたします。

きょうは予定では11時40分までこの会議をやらせていただきます。どうぞ最後まで御参加いただき、熱心な御議論をいただきたいと思っております。よろしく御協力をお願いいたします。

それでは早速ですけれども、本日の第1議題であります、今回6カ所で開催しましたタウンミーティングについて、事務局のほうから説明をまずお願いしたいと思います。よろしく願いします。

○経営企画課長 経営企画課長の加藤です。私から説明させていただきます。

資料1を御覧になってください。今回のタウンミーティングの特徴は、従来の形式と違いまして、専門委員の先生方と市民委員の方々が、前面に立ちまして内容を説明し、意見交換に臨んだところでございます。当局側は市長が挨拶をするだけといった画期的な形式で、市民の方々からも高い評価をいただいたところでございます。

出席者の状況でございますが、1に書いてありますとおり延べで257人。その中でも蒲原地区におきましては79人と、会場にも入れないぐらいの人にお集まりいただきました。

その257人の方々のうち、会場で発言された方が、2の提案者でございます。合計で男性の方が147人、女性が16人、総合計で163人でございます。その中でも60代の方が一番多く発言されました。60代の男性の方62人、女性の方8人といったような状況でございます。下はグラフ化したものでございます。やはりこの状況見ますと、若い人々、あと女性の参加が少ないということがうかがえます。したがって近々ですね、この若い方々とか女性を対象にしましたタウンミーティングをもう一度やろうかと、そのように予定をしております。

裏面を御覧になってください。その御意見の提案分野でございます。中でも一番高いのが、や

はり都市基盤に係る御意見が42件と多かったわけでございます。次に高いのが産業・経済の24件、次が生活環境の21件、健康・福祉の20件。市民の方々の関心の高い分野というのがここからわかると思います。下はそれをグラフ化したものでございます。

それでは、各会場の御意見等について主な御意見を紹介したいと思います。

まず北部生涯学習センターでございますが、この地区は中山間地域での交通問題に対する御意見とか、新東名に係る質問など地域特性に関する御意見がございました。また人口減少社会とか超高齢社会に対応した施策の必要性など、時代の潮流に対応した御意見や、環状交通システムの提案など静岡市全体を視野に入れた建設的な御意見も多かったところでございます。例えば（2）の住みやすい中山間地域にするため、アクセス道路、通学しやすい環境の整備をしてほしい。（5）では高齢化社会に対応した将来を見据えた行政運営をしてほしい。（6）では新東名静岡インターの都市計画はどのようになっているのか。それと（11）では人口減少社会に対応した計画をつくってほしいといった御意見がございました。

次の南部生涯学習センターでは、大学や人々が集まる地域拠点を結ぶ交通ネットワークや道路網の整備に対する御意見とか、大学の活用などの地域特性に関する御意見が多く出ました。そのほかに静岡の特色を生かしたまちづくりに対する御意見とか、生活者の視点や市民の役割も具体的に総合計画に取り組んでほしいといった御意見がありました。例えば（1）では駿河区の公共バスについて計画に盛り込んでほしい。（2）では駿河区の道路整備をもっと進めてもらいたい。施設へのアクセスと一体的に進めてもらいたい。（4）では静岡下島線、丸子池田線、東町高松線はどうなっているのか。（8）では有東地区に公園を整備してもらいたい。（13）、（14）では駿河区の資源として、学生からの文化発信をしてほしいといったことでございました。

次に裏面を御覧になってください。長田生涯学習センターでは用宗海岸の活用とか、安倍川駅前広場の整備などといった地域特性に係る意見のほか、住民組織の活用とか個性的な教育の必要性、交通体系の充実、お茶農家への支援とか、街路樹、屋上緑化へのお茶の木の活用など建設的な御意見もございました。そのほか、区の特徴が明確な区別計画の策定を望むといった御意見とか、計画の進捗管理をできるシステムの必要性などといった、計画の内容や進め方に言及する御意見もございました。（1）では用宗海岸に区民の家などの施設を整備してもらいたい。次の（4）では長田地区に消防署の設置をしてほしい。あと南署の位置をもっと西側に移設してもらいたい。

（7）では安倍川駅前広場にベンチや木などの公園を設置してもらいたい。あと、これも興味深い意見ですが、（12）でございます。木材チップをごみと一緒に収集できるシステムができないかといった御意見もございました。あと（14）では長田地区を歴史文化の伝承、観光産業の発信

地域としたらどうかといった御意見がございました。

次の蒲原保健福祉センターでございます。一番人が集まったところでございます。ここでは、蒲原畑総内の土地利用とか、御殿山の土砂崩れなどの防災対策、豪華客船の清水港への寄港、そういう地域特性の御意見とか、二級河川の維持管理、費用対効果は少ないが地域生活道路としての道路整備等、一番多く出たのが急病センターとか蒲原病院の産科医の不足等の問題でした。具体的には次のページの（６）、ここでは蛭沢通線の整備について、費用対効果だけではなく、将来的な面も見据えて進めていただきたい。（８）では谷津沢川の整備保全について河川の付加価値を高める努力を住民と一緒に行政が話し合いながら進めてもらいたい。（１１）では蒲原畑総内の農地について、市民農園として利用していく必要がある。次は（１６）新蒲原駅の橋上駅舎化、あと駅前交差点の３車線化をお願いしたいとか、あと１７では、由比蒲原地区への下水道の整備をお願いしたいという御意見です。次が（１９）から（２０）、（２１）あと（２３）くらいが蒲原病院の関係でございます。まず（１９）では救急病院の内容、病院としての位置づけはどのようなものか。（２０）では医師不足に対する対応、医師の派遣とか産科、小児科、循環器科、開業医の招致などが望まれて、（２１）では診療閉鎖など蒲原病院で診療を受けられない現状があるため、平等に医療が受けられるようお願いしたいということでございます。（２３）では蒲原病院までの交通の便が悪い。旧由比町のコミュニティバスの延長を望むといった御意見がありました。

次に清水でございますが、ここは清水駅東口の文化センターの建設とか、興津駅の周辺の開発と観光案内所等の整備、あとは清水港の輸出入の拡大策とか、巴川の清流化などといった地域特性の御意見のほか、あとプラモデルを生かした地域の活性化とか、コミュニティづくりや市民と行政の具体的な協働策の提言、子育て支援策の必要性とか医療体制の充実を求める御意見がございました。具体的には（９）では静岡プラモデルミュージアムをつくってもらいたい。次のページへ行きまして、（１３）では興津駅の周辺整備、あとは橋上化の整備をしてもらいたい。（１４）では清水港のポートセールスを推進していただきたい。（１７）では急病センター設置は市内２極化にしてほしい。（１９）では清水厚生病院の設備と医師の充実をもっとしてほしい。（２４）では巴川を清流化してほしいといった御意見でございました。

葵生涯学習センターでございますが、ここでは産業活性化のための人材育成ですね、あと中学校におけるクラブ活動の必要性などといった、将来の静岡を担う人材育成に対する御意見がございました。あと生活者の視点を大切にされた地域拠点のネットワーク化とか、自治会の活性化、また市民参加の促進策など、市民力を高める政策に対する御意見とか、戦略プロジェクトに係る御意見、財政負担の考え方の御意見がございました。特にこの会場では、地域に特化した御意見が

少なかったというのが特徴でございます。

中身ですが、（１）ではまず１次総の総括をしてから２次総を策定すべきだと。また財政負担を将来に残さないようにしていただきたい。（２）では戦略プロジェクトの推進に当たっては、縦割り行政にはならないでいただきたい。（３）ＬＲＴの導入も含めて拠点間のネットワーク化を高齢者が移動しやすいようにしていただきたいといった御意見。それと（７）では、日本平のインターチェンジの設置とか、あと空港へのアクセス整備を検討していただきたい。（９）では小中学生も選挙事務に参加したり、若者の自立を促す長期的な団体活動を行ったらどうかといった御意見もあります。次のページを見ていただきまして（１５）では県立大学に医学部の設置ができないとか、あとですね、（１６）では観光交流都市を目指すためには、静岡を知り、語る人材の育成が必要だといった御意見等でございます。あと（１９）では、駿府城の天守閣の再建に向けた取り組みを望むといった御意見等も出されました。

ほかにファックス等でも御意見が寄せられております。例えば（３）では生涯学習の場として丸子地区の歴史資料館の建設をしてもらいたとか、（４）では丸子城を復元してもらいたいといった御意見。（８）では三保半島の工業地帯への企業誘致、清水地区への企業誘致の可能性に対する調査を実施してもらいたい。あとは最後（１５）では、観光資源についてでございますが、観光に特化することなく、美術とか歴史、伝承、伝説を有機的に結合して文化的な観光資源としてはどうかといった御意見等をいただいたところでございます。

現在これらの御意見を、関係各局に投げかけて対応策などを検討していただいているところでございます。それがまとまり次第、ホームページ等で御意見、それに対する静岡市の対応を公表するつもりですので、よろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

○佐藤会長 はい、ありがとうございました。ただ、今の説明に対して何か委員の皆様への御質問あるいは御意見ありましたらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○佐竹委員 質問させていただきます。昨日ですね、健康福祉基本計画の中の静岡市子どもプランの委員会がございまして、そこに参加させていただいたんですけども、それは今回の第２次市総合計画の中の部門別の計画の一部だという説明があつて、これから各市民に対していろんな意見交換をする場を設けていくのだと。そこでもまた市民から意見を聞くということと、今回のタウンミーティングの結果との整合性というか、これからどうするのかというのが、同時並行で今進んでいるものですから、何かどっちもこう、どこの部門でこれをやっていくのかがなかなか分かりづらい。他に他の部門も同じようなことやってるのかどうかも全然その辺がよくわからないので、その辺もわかりましたら、教えていただきたいんですけども。

○佐藤会長 今回の御質問に対して何か事務局、あるいはございますか。

どうぞ。

○経営企画課長 我々のほうの総合計画におきましては、政策体系等が中心となったタウンミーティングを開催しました。現在、各分野においては、その政策体系に即した形でいろんなものを策定しているところがございます。各分野における計画でも、タウンミーティングとかあとパブリックコメントを実施することとなっております。それは当然ながら、総合計画に集約されるところでございます。いろんな御意見等も整合性をとりながら、総合計画や各分野の計画を策定していくということとなろうかと思えます。

○佐藤会長 佐竹さん、どうですか。今の説明で。

○佐竹委員 もう少し具体的にね。

○経営企画課長 よろしいですか。さまざまな計画ございますが、それぞれですね、担当課一つではできないような計画でございます。それぞれ横断的な分野にまたがった計画でございますので、それぞれプロジェクトチーム的なものを立ち上げて、関係課の職員で構成してそれを練ってくるというような作業を進めています。我々、企画課の職員もですね、必ずどのプロジェクトにも参加するような形でございます。私もいろんな分野のプロジェクトに参加してるところでございます。そういったところで、各分野の細かい内容と、総合計画との整合性というのは絶えず図っているところでございます。離れないというような形で総合計画のほうで集約しており、各分野もそれを細かく細分化していくというような作業を進めているところでございます。

○佐竹委員 ということは、常時すり合わせしてる、それともどっかの時点で一緒になるの。それを聞きたいんです。それはどう。

○経営企画部長 総合計画ではですね、要するに大きな方向性、見る方向性を政策体系の中で冊子にしておりまして、その中で見る方向を一緒にしながら、それぞれの所管局ではそれぞれの個別の計画を策定してるということで、常時お互いに総合計画の中での議論の内容をその個別の計画に、こんな方向性だよと言ったようなことをいたり、あるいは個別計画の中で我々はこんなふうに計画をしてるんだけど、総合計画の方向性とは離れていないだろうかといったような形を、常時それぞれのプロジェクトチームの中でお互いに意見交換をしながら見ていく方向でこれにしよう。

要するにまた今回、戦略プロジェクト等の提示があるわけですけども、ここ5年の中でどんなところに重点的に力を入れていくんだと。その重点的なものの中に個別の計画は反映されるのかどうか、そういった議論をしながら、あと実際に総合計画を推進するためには、個別計画の

中で具体的にどんなところに力を入れていったらいいのだろうかといったようなことをお互いに話し合いながら、それぞれがそれぞれの方向を見る、その方向を間違えないように、そういったようなことをすり合わせしながら事業を進めている、検討を進めているといったようなことでございます。

○河合委員 私も立場上いろんな委員をさせていただいているんですけども、何か計画が多過ぎるんじゃないかという感じは持つんです。総合計画がありまして、健康福祉基本計画があって、高齢者介護計画があって、子ども何とかプランがあって。これじゃ市役所の職員は計画をつくるだけに追われてて、日ごろの仕事はできるんだろうかと、そういうふうな感じをちょっと持つんですよね。委員になられてる皆さん方も、いろんな委員会に出ていろんなところで同じようなことやってというようなことがあってですね、もう少し何か全体の計画というのをスリムにできないのかなというような印象は持つんですけれどね。具体的にどうしたらいいかということの提案まではないんですけども、ちょっと何か計画づくりが多過ぎるんじゃないかなという印象はちょっと持ちますね。

○経営企画局長 ただいまの御質問のお答えになるかどうかわかりませんが、1次総の冊子の例えば82ページをちょっと見ていただきますと、82ページ、83ページに未来を築く元気な子どもの育成支援というただいま話題になっているような分野の政策体系が載ってるわけですね。副会長の御質問は、部門ごとの計画とこの総合計画との関係性を御質問されてると思いますが、一番左側にあるのが幹になる大きな政策の柱なんですけど、この柱はですね、部門がつくる個別の計画であっても、この柱は変えないんですよ。この柱は踏襲して、なおかつ右側のほうのより細かい政策で事業レベルのところの考え方をですね、もう少し書き込みたいというようなやっぱニーズがありましてですね、それをよりディテールを細かく書き込んでるのが分野ごとの計画です。ですから市役所全体の計画としては、全体のこの総合計画が中心にあって、分野ごとの計画をより細かく書いたのが、ただいまの話題になってるので言いますと、子どもプランということになります。したがって整合性はとれないことはなくて、とるのが当たり前だということになります。

それから河合委員の御質問に対しましては、確かにそういう風潮はございますが、これはまた今、市長の冒頭の御挨拶にもありましたように、非常に法律なんかで分野ごとの計画を策定を義務づけているようなケースがあるんですよ。それは国側の、例えば子どもプランなんかで言いますとね、昔はエンゼルプランなんていって事業量まで決めて、その事業量を達成するための具体的な計画を各地方団体に策定せよという、義務づけがあったりしましてですね、そういうものが

縦割りの計画の中にいっぱいあるわけなんですよ。それをどうしても義務づけられちゃう、法律に書かれちゃうもんですから、地方団体としてはつくらざるを得ないわけですね。それをできるだけうちとしては総合行政しなきゃいけないわけですので、こういう総合計画との整合を図りながら、かつ国の求めているような要件、計画に盛り込むべき要件なども満たしながら処理をしてるということになります。

それから3点目ですがね、計画がいろいろあるけども、じゃ、ばらばらに事業をやるのかということですが、そういうことではありません。市役所の仕事の仕組みというのはですね、必ずこの総合計画に基づいて、どんな事業プランであってもこの計画に基づいて、毎年の予算と連動するための実施計画をつくります。これ実施計画というのはもう既に、きょうはちょっとお持ちでない方もいらっしゃると思いますけど、こういうアクションプログラムに相当するこの実施計画に、どのプランであっても載ります。どの事業のプランであっても。ですから子どもプランというのが独立して財政フレームを持って、それでそれが総合計画とは関係なく事業が実施されるということではありません。市役所の事業はすべてこの総合計画に最終的には包摂されて、その実施計画に乗せて、予算に乗せて実施していくというシステムをとっています。

これがですね、縦割り行政でない国との違いなんです。あるいは県との違いなんです。静岡市役所というのは最後の、行政を最後に市民に提供しなきゃいけない分野ですから、別に静岡市役所以外の事業主体があるわけじゃありませんので、ですから1つの考え方に基づいて、すべての事業が最終的には総合計画というフィルターを通してながら統括されてますので、ばらばらに、整合をとれなくて実施するということにはなっていないということでございます。

○五十嵐委員 いいですか。今、局長おっしゃるとおりですね、政令市なもんですから、いろんな事業が行政庁として移譲されてるというのは理解ができるんですね。ですから、計画自体が多様な計画はつくらなければならないというのはわかるんです。今、先生方がおっしゃったように、私も今いろいろな計画づくりの委員を、4つ、5つやっています。それで1つは先ほど副会長さんが言ったように、同年度にですね、計画を両方ずつくってるもんですから、その時限設定が非常に難しいなというのがありましてですね、各所管から何とか当局に言わせると、みんな忙しい中、委員さんがたくさん出て意見を言うと、ある程度のものがまとまってくると、これが企画当局ですべて認められるか、財政当局で認められるかわからないから、4回、5回やって、その結果は委員さんの枠を超えてるといような部分がやっぱり同年度でやるもんですから出てきちゃうわけですね。

ですからフレーム系が例えば今年出て、各所管がそれを受けていろいろな構想を受けた流れの

中で1年遅れで、例えば前後でいいんですが、計画をつくってそこで整合してですね、もう一度汗水たらした我々委員さんのほうに、こういう結果になりましたということでフィードバックしていただければいいんですが、できたものを企画なり財政なりへ持っていったら予算が高額だもんで、これはこの事業は無理だということで、結果としてフィードバックがないという状況が、同年度で起こってるというのがあるもんですから、そこら辺をですね、いろいろな委員さんの言った、市民の代表者が言ったものをうまく受け入れて、対応していただけると大変ありがたいなと、そんな感じがしております。以上です。

○佐藤会長 はい、ありがとうございます。

○市長 この話をすると僕も疑問に思うことがいっぱいあるんだけど、ただですね、例えば市が持っている公共施設の耐震補強なんかも、これはやはり耐震補強計画をつくる各所管で計画づくりをやってるんです。これはどこの市町村もやらなきゃいけない。それをいかにこの総合計画の中で財政フレームの幅でやるかというのが企画の考え方。逆に言えばですね、耐震補強計画をこれとこれを自分はやっていきたいというふうに言って計画をつくったとしても、財政フレームに入らない場合が結構あるんです。だからこれはやりたいけども後年度へ回さざるを得ないとかですね、そういうことの議論が総合計画の策定なんです、最終的にはですね。

それで、例えば結局、計画づくりを国からしなさいと。その計画に応じてですね、何年かの間の国の補助を大体計画、国のほうもそれを吸い上げて全国の補助の計画をつくってるわけですよ。そういう関係なもんですから縦横の関係がいろいろ結構あるんです。難しい。

ただまあ、行政はあらゆる分野について、総合行政ですから、ある程度必要なものを優先順位を決めながらやっていかなきゃいけない、それも広い分野でやっていかなきゃいけないもんですから、やっぱりいろんなところで各分野ごとに計画をつくって、それが全部総合計画に入るわけじゃないけども、それを見ながら事業を企画していくという作業にならざるを得ないというのはあります。

さっき財政の話をしましたけど、今まではですね、できるものしか書いてないんですこれ、実は。やろうと思ったけどできないものも書こうじゃないかという、今ちょっと発想を変えてるんですけども。というのは、例えば耐震計画とか、子どものいろいろな計画ですね、それを各部署がいろいろ理想的に、少子化対策でこれを何年までにこういうふうにやっていきたいといっても、全部やったらもう財政フレームに入りっこないですよ、実は。やりたいと思ってるけどここから先はできない。でも、できない部分も出したらいいじゃないかと。できる部分だけ今まで書いてたのがこの総合計画なんですけどもね、そういう発想でないとちょっと厳しいなというのが実は

あるんです。

ですから、やらなきゃいけないこといっぱいあるんですけども、その中でやはりいかに優先順位を決めていくかという厳しい判断が今年の後半でやるんですけど、この中でこれはやっぱり優先順位高いとかですね、その議論をしていただくとありがたいなと思います。

○佐藤会長 いろいろ御意見いただきましたし、まだ御意見もあろうかと思いますが、この話、2番目の議題である総合計画のテーマを実現するための戦略についてと結びつけて、その中で具体的に考えていくことができるようにも思います。もしよろしければ第1議題はこの辺で……。

○松浦委員 1つだけ質問させてください。私きょう初めて出させていただきます。確かに政令市ですから、県から自立しなくちゃならない。ただその行政サービスの内容を見ますと、健康・福祉では当然のことながら県立病院なり市立病院がある。それから医師不足の問題、介護施設の問題、これも市だけでやれる問題じゃない。やっぱり県と連携しなきゃならないと思う。

それからさらに文化の面ですが、例えば、県は静岡市には舞台芸術を根づかせよう、また浜松は音楽のまちにと進めてるわけですが、この辺をどう考えるのか。あるいは教育もそうなんですけど、多分、市の教育って主に小中学校はほとんど市立ですが、ただし高校になるとむしろ県立高校が多くなる。そうすると学校教育というのは小学校、中学校と高校と分けて考えるのではなく一貫して考える必要があるから、当然のところそこに何らかの連携がないといけないだろうと思いますし、ましてや静岡は商業都市であり、現実に県立静岡商業、静岡市立商業がありますが、今般その市立商業と県立南高校と合併させるということですが、本来商業のまちであるならば、むしろそれは強化していかなければならないのだが、その辺をどう考えていったらいいのか。

それから産業で言えば、県は御存じのようにトライアングルクラスター構想っていうのがあります。まして、静岡を中心に中部地域はいわゆるフードサイエンスヒルズ、いわゆる健康食品だとか食品工業とかそういった企業を集積していこうという流れがあるわけですが、それではこの政令市・静岡市としては、これに対してどう対応していこうとするのか。もろもろそういう問題って出てくるんですが、これをこの総合計画の中ではどう捉えていくのか。

それからもう1つですね、これは大阪府がそうだったんですが、例の橋下知事が水道事業について、大阪市と大阪府が双方でやってると非効率だと。だから府の事業は廃止して、大阪市の事業を活かすことにするという。要するに、財政が厳しいなか重複を排除して効率化を図ろうとするわけですが、そういう中であって、本市において産学交流センターが、静岡市にありますけども、一方県には産業創造機構があって、同じ目的でどっちも似たようなことやってる。そういう県と市で重複する事業が幾つかあるわけですから、そういうものをどう調整していくのか。これ

も国の指導で県・政令市双方で設置することになっているだろうが、信用保証協会なんかは、政令市でもできるんですが、静岡の場合は県だけでやってるわけですが、そういう選択もできるんだろうと思うんです。その市と県との関係をこの総合計画ではどう捉えているのかよくわかりませんが、その辺をおわかりになったら教えてください。

○佐藤会長 今の松浦さんのは御回答いただけますか。それとも、今、さまざまいただいた御意見というのは第2議題にも関連しますので、その中でまたやりとりさせていただくということでしょうか。

○小野寺委員 タウンミーティングについてちょっと聞きたいんですが。このタウンミーティング、御報告いただきまして、今回、専門委員の方と市民委員の方が御出席いただいて、大変好評だったということで、すごくいい試みだったなというふうに思います。ただ、年齢別の属性があったんですが、実際、職業とかそういうこと、どういう方がいらしたのかなというのがとても興味がありまして、時間帯もまちまちで設定してくださっていますが、やっぱり出やすい方とかが、少し見えるんじゃないかなというふうに思いますので、その辺やっぱりお聞きしてるかどうかわからないんですけど、例えば企業でのどの関係の方がいらしたのか、医療関係とか学生さんとか、学校の関係者の方とか、どういう方がお集まりになったのかなというのが気になります。

特に60代とか70代とか高齢者の方が多かったというふうに、御報告いただきましたけど、60代の団塊世代の方でも一回御職業を離れてまた再就職されているとか、いろんな活動されているとかっていうふうに、決して皆さん暇な状況でいろんな余暇を楽しむというような方ばかりではないというふうに、このごろいろんなところでお聞きしますので、60代の方でもいろんな職業におつきになっていて、そういう目で見えていらっしゃる方が来られていたのか、それとも多少余裕のある方とかが来ておられたのかということで随分違うのかなというふうに思いまして、ちょっとその辺がわかれば教えていただけたらなと思います。

○経営企画課長 ここで年齢とかがわかったのは、タウンミーティングに来られた方で意見表を提出された方だけです。それでその意見表には職業欄は設けてございません。必要最小限な情報ということで、氏名とか男女の別、あと年代等でございます。そういった中で職業は判明していないということでございます。

○佐藤会長 よろしいですか。

○須藤委員 ちょっとすみません、先ほど会長のほうは、希望とか夢を語ろうということでおっしゃんですけども、実際タウンミーティングとって、私も初めて出させてもらったんですけども、そういう話は市民からは出てこないんですね。同時に今、自分たちの生活の中で何が問題だ、

何をしてほしいということが非常に多いんですね。

中にはその長期的な話、要望も出てきてますけども、そうするとタウンミーティングをやる時期ですね。それで中には実施計画まで重要だと。私たちは生活に密着するものが実施計画だから、それが必要なんだから、それを知らしてほしいということで、もう一回やってくれるのかという意見も出てたんですね。だからこういう中でのタウンミーティングの持つ時期というものが、果たして今の時期でいいのかどうかということも含めて話を聞かしてもらいたいですけども。

○佐藤会長 今の御意見のようにタウンミーティングの位置づけとか、時期の問題も含めまして、そこらあたりまた事務局のほうで今までの経験を踏まえながら、できるだけ市民の皆さんの広い声をくみ取ることができるような、そういう形でぜひ今後、御計画いただきたいというふうに思います。

私も実は南部生涯学習センターのタウンミーティングに参加しましたが、市民の方々が日頃お感じになってさまざまな御意見を持つてるということがわかりました。須藤さんがおっしゃるように、確かに身近なところであれをこうしてほしいとかといった意見がどうしても多くなりますよね。そういうことと我々が、この懇話会で扱ってるとような総合計画とどう結びつけ、くみ上げていくのかというあたりが、これからの総合計画づくりの中で、ぜひ考えて整理していかなきゃいかんのかなというふうに、感じたところです。

いろいろ出ましたけども、時間の関係もございますので、もしよろしければ第2議題の「総合計画のテーマとそれを実現するための戦略について」というところに移らせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

それでは第2議題につきまして、これは専門委員の方から御説明をお願いしたいと思います。よろしくどうぞ。日詰さん、よろしく。

○日詰委員 日詰と申します。どうぞよろしく申し上げます。

それでは資料2に基づきまして私のほうから簡単に説明をさせていただきます。「第2次静岡市総合計画のテーマとそれを実現するための戦略について」ということでございます。

この1ページにつきましては前回も少し御報告させていただいておりますけれども、この第2次総合計画を策定するに当たりまして、その1枚目の左側でございますこの四角の中にある静岡市の基本構想でございますが、一応これを踏まえた上で第2次の総合計画を策定するという枠組みになっております。これは第1次総合計画を策定する際に、静岡市の10年にわたる基本構想が示されて、それが議会で決定をされております。そこでの目指すまちの姿というのが、そこにございますように、「活発に交流し価値を創り合う自立都市」ということになっておりまして、こ

これは1次、それから2次、両方の総合計画にまたがってこのテーマのもとに静岡市のまちづくりを進めていくということになります。

ここでの柱といたしまして、活発に交流するという柱、それから価値を創造するという柱、そして自立都市を形成するという柱の3つがございまして、基本的にはこれを踏まえながら第2次総合計画を策定していくということでございます。しかしながら、前回5年ほど前に策定したときと、今の現状というのは大きく変わってございます。それが左下のところにございます時代の潮流ということでございまして、そこにございますような、1から9にまたがる時代の潮流というものを踏まえて、第2次総合計画を策定しなければならないということがあります。

加えて今時点におきまして第1次総合計画は今年度までということになっておりますけれども、それはこれまでのところで総括いたしますと、真ん中のボックスのところにございますように、第1次総合計画におきましては、特にこの政令指定都市に移行していくというその効果をですね、短期間で達成するという必要性がございました。それを行うために12にまたがるスタートアッププロジェクトというものがございまして、それを柱としながら、各政策を横断しながら、この政令指定都市としての基盤を確立していったわけでございます。そのあたりのスタートアッププロジェクトにつきましては、お手元にございます1次の総合計画の32、33ページのところに掲載されておりますので、後ほど御覧いただければというふうに思います。

それからあともう1つ、総括をしていく中で1つの視点となったのが、やはりこの新しい静岡市、この新しい静岡市をどうすれば一体化できるのかというところでございまして、その一体化を進めるということも1次総における非常に大きな視点であったわけでありまして。その中で活発に交流し合い、そしてさらに価値を創り合っていく、そういった担い手としての市民が育っていくということの必要性が特に重視されたわけでございます。

このような状況を踏まえて、2次総においてどのような点を少しグレードアップすればいいのかといったところを議論いたしました結果、右上の赤いボックスのところにございますような3つの柱が浮かび上がったわけでございます。1つ目は、高度な政策推進への挑戦ということでございます。これは左下のほうにございますように、時代の潮流を見据えたときに、非常に複雑化し多様化した諸課題というものがございますので、そういった諸課題を、自立した市民の皆様と一緒に解決していくような政策を出していく、そういった方向に向けてですね、2次総では向かっていこうという方向性ですね、これが1つ目。

それから2つ目は、全市的な総合力を発揮するというところで、特に価値の側面に重きを置きながら、静岡にあるすべての要素あるいは資源が磨き上げられて、加えてシティ・プロモーション

といったものに取り組むことによって、地域産業をさらに活性化し高付加価値化していくといった方向に進むという点が2つ目でございます。

それから3つ目が、都市機能の高度化の推進ということでございまして、静岡市、だいたひ都市基盤も整備されつつあるわけでありましてけれども、より一層機能の向上を目指してグレードの高い、加えてフットワークのよい都市を目指していくという視点でございます。こういった3つの視点に配慮しながら、第2次の総合計画を策定していくという方向性が示されているわけでありまして。

もしこのようなことが実現した暁には、その下のところがございますような、静岡の発展を支える、あるいはその発展を生み出す可能性のある9つのファクターと相まって、一番右下のところがございます世界に輝く『静岡』といったものが創造されていく可能性があるということでございます。そこで第2次総合計画におきましては、世界といったものを見据えながらこの計画をつくっていかうというところにまとまったわけでありまして。

2枚目をお願いいたします。先ほど申し上げましたように、基本構想の枠組みがございますので、第2次総合計画のテーマを「世界に輝く『静岡』の創造」とさせていただいてるわけでございますが、その3つの戦略といたしましても、活発に交流するという側面、それから価値の創造を図るということ、それから3つ目が自立都市を確立していくといった、これにも配慮していくということでございます。このような点で3つの戦略を考えたときに、その下でございますけれども、この活発に交流する範囲を拡大していくということ、それから価値創造の推進を高めていくということ、そして自立都市の基盤を確立していくという、この3つの戦略に、世界というキーワードを重ね合わせることによって、この第2次総合計画の戦略を考えていかうと、このように私どもは考えました。

そこで戦略といたしましては、ちょうど真ん中のところがございますけれども、3つの柱ということで、活発に交流するということ「人財（ひと）」というファクターに、それからあと価値創造というものを「価値（かち）」、それから自立都市というものを「地域（まち）」という3つのキーワードに組み替えまして、そこで戦略を考えたわけでございます。

その戦略のIが、世界に羽ばたく『人財（ひと）づくり』ということでございます。この世界に輝く静岡を創造していくためには、すべての市民が豊かな可能性を持つ存在として尊重されていく。そして市民一人一人がそれぞれ役割を担う大切な財産であるという認識。加えてそういった人々が健やかに暮らしていくというようなまちをつくっていくということが求められるわけでありまして。そして、加えてさまざまな市民や団体が、それぞれの役割を担い合って力を高め合

とによって、さまざまな可能性を開花させて、世界との交流とか連携を深めていくといったことが大切になるわけですが、そういった理念のもとにこれを実現していくプロジェクトとして4つのものを掲げました。

1つ目は未来を開く子どもプロジェクト、2つ目が健康長寿プロジェクト、3つ目が社会参加と自立のまちプロジェクト、4つ目が静岡まちぐるみ協働プロジェクトということでございます。ここのキャッチフレーズを見ますと、すべての人が世界に羽ばたく存在になるんだというふうに捉えられがちではありますが、そういった側面だけではなくて、むしろこの静岡の中に住んでいる市民一人一人が大切にされ、そして力が高め合ってすべての方々が世界を視野に置きながらいろいろな営み、活動に進むことができるよう、そういった人になっていただくような構成を念頭に置いております。

それから戦略のⅡが、世界に求める『価値（かち）』づくりということでございます。世界に輝く『静岡』を創造していくためには、静岡が持っている豊かな自然、それには培われてきた長い歴史文化、さらには産業、こういったものを世界水準を目指して磨き上げていって、将来につながっていくということが求められるわけでありまして、そして新産業を創出していくことであるとか、あるいは新たな静岡の文化をつくり上げていくということ、そして地域産業の高付加価値化や、あるいは静岡ブランドをつくり出していくと、こういった形を通して世界に向けて発信できる価値をどんどん生み出していくということでございます。このような戦略を支えるプロジェクトといたしまして、シティプロモーション推進プロジェクト、それから地域産業ブランディングプロジェクト、そして3つ目が低炭素都市創造プロジェクトを掲げております。

そして戦略の3つ目が世界に魅せる『地域（まち）づくり』ということでございまして、この世界に輝く『静岡』を創造していくために、各地域の多様な個性や特性をより一層伸ばしていくと同時に、それらが連携し合いながら市域全体の総合的な魅力を高めていくということが求められるわけでありまして、加えて市民の安全や安心を確保して、ゆとり、あるいは安らぎをつくり出していく。そして多くの人々、世界の人々が憧れ、誰もが住みたくするような地域を創造していくことを目指すということでございます。この戦略を支えるプロジェクトといたしまして4つございまして、ネットワークシティプロジェクト、2つ目が市民が誇れる美しいまちプロジェクト、3つ目が魅力あふれる中山間地域活性化プロジェクト、4つ目が市民の安全・安心確保プロジェクトということにまとめております。

こういった戦略が既に基本構想の中で示されておりますまちづくりの大綱とどのように関連しているのかといったところを一番右側のところに示しているわけでございます。

一応このように戦略3つを掲げまして、そして前回お示ししましたようなプロジェクトをもう一度見直しをしまして、関連するプロジェクトを束ね直してみたりとか組み直してみたりとかいたしました結果、中間的な報告という形でこういうものをきょうは示させていただいたわけですが、ぜひ皆様の御意見をお伺いしながら、また検討を進めていきたいというふうに思っております。説明は以上です。

○佐藤会長 前は13本の戦略プロジェクトについて、皆さんの意見をいただいたと思うんですが、きょうはそれをかなり整理していただいて、そして世界をキーワードにして人財(ひと)づくり、そして価値づくり、地域(まち)づくりというところで計画がより具体的なところで展開されるという様子がわかったと思うんですが、今いただいた説明に対して何か委員の皆さんのところで御質問、御意見ございましたらいただきたいと思います。いかがでしょうか。13本が11本になりましたが、どこらあたりがそちらの専門委員会の御議論で調整されたのでしょうか。

○日詰委員 そうですね、ちょっと今、資料が出てないんですけど、とりあえずですね、やはり概念的にプロジェクトとして内容的に重複してる部分が幾つかございましたので、例えば観光にかかわるプロジェクトがあったかと思うんですけども、そういったものをシティプロモーションのところと統合するというようなことがあったり、それからあと地方分権のところがございましたけれども、その地方分権というのはどうも何か戦略の中でですね、独立しているのがなかなかそういうことになじまないのではないかということで、これを戦略Iのほうにあるような、まちぐるみ協働プロジェクトですね、こちらのほうに入れ込むというようなこともやりました。それからあとは世界に魅せる『地域(まち)』づくりといったところというのは、やはり地域的な属性にかかわる戦略であるということでありましたので、例えば価値づくりに入っていたものを、この地域(まち)づくりのほうに移し替えるとか、そのような組み替えもちょっとやらせていただきましたので。

○佐藤会長 いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○五十嵐委員 また日詰先生、いやな顔するかもしれませんが、世界に輝くというこの世界というのがどうも引かかると。これ例えば変な話、世界の、もちろん羽ばたく価値とか、地域づくりというのが言葉として悪いことではないんですが、今さら世界かということと、もう1つが、5年間の基本計画ですよね。5年間の基本計画で、今のこの時代変化の中でですね、市民の皆さんが一番、選挙対応じゃございませんが、求めているのっていうのはもうちょっと内向きじゃないかなというふうな、安心・安全とかね、そういう問題の中でやって、どうしても世界に羽ばたくっていうと、人も産業も、やっぱりそちらの部分のイメージがどうしても高いと。5年で世界

に羽ばたくのかなと。ぶっちゃけた見方をするとね。

するとそれじゃ次の第3次するときには何て言葉使うのっていうようなね、宇宙ですね、宇宙って言わなきゃなんなくなっちゃうんじゃないかなと。5年で世界に対応できるの本当に、ていうようなね、文言だけで遊ぶのはいいんでしょうけど、何か現実的な問題考えると、やっぱバックグラウンドとして時代に変化、進化ですから、そこら辺のもうちょっと市民向けのですね、落ち着いたですね、市長じゃないですけど、財政的に厳しい折の中で夢を若干入れた中で、市民が安心して静岡市で美しく暮らせるというような、ちょっとそこら辺がですね。じゃ、世界だけ相手にすりゃいいのと。霞食って世界かよみたいな、そんな意地悪な判断をしますと、何かそんな感じがするものですから、日詰先生には申しわけありませんが、ちょっと意見として。

○佐藤会長 五十嵐さんには前回からやや辛口な御意見をいただいているんですが、そのほかにどうぞ。

○松浦委員 県の総合計画では暮らし満足度日本一。日本一なんですよね。それから都市みらい創造会議では、10年後、20年後の静岡市を定住都市を目指して、日本一住みよいまちづくりをしようということなんです。そういう計画と、これ確かに今皆さんおっしゃったように、世界となるとちょっと現実離れしてしまう。もっともっとまだそこへ行く前の、前段階でやらなきゃならないことがいっぱいあるような気がするんです。人材が世界へ羽ばたいてもらっちゃ困るんです。人づくりは大変だけでも、この土地で育った人、育てた人たちがこの土地で頑張ってもらって地域の発展に尽くしてもらいたいという、人材の地産地消を進めたいと思うのです。何か世界が求める価値といっても価値観というのはどんどん変わってっちゃいますし、宗教や民族によって色々な価値観があるわけですから、共通したものがあわけじゃありませんね。気持ちはものすごくわかるんだけど、具体的な個々のプロジェクトと違和感が出るというか、キャッチフレーズが実際のプロジェクトにそぐわないんじゃないかな。そんな感じがいたします。

○佐藤会長 私、この会の司会として、できるだけ委員の皆様にご発言いただきたいと思っております。はいどうぞ。

○佐藤京子委員 私もこういうふうの世界というところで、あれ？と思ったんですけど、私も今までの世界に羽ばたくとか世界へという、私たちがいつも世界へ行くというほうが、だから静岡空港ができて、何て言うですかね、私たちは行くことばかり考えてたんじゃなかったかなって思ったんですけど。逆に世界から来ていただく静岡に、というふうはこの世界をとらえると、私たちが外へ向かって行くのではなくて、外から静岡へいらしていただく。そういうふうにして考えていくと、ここのところはいいのかなって。特に静岡空港もできてということもあったりして、

ゆうべ見てて、そういうふうにしたんですけれども。

○佐藤会長 ありがとうございます。一応この中では交流という言い方で、出ていくだけじゃなく迎えられるという、双方向で世界というものを位置づけてると思うんですが。あといかがでしょうか。どなたか。

○小野寺委員 今、内向きのことを言われることが多いので、世界というのは、言われたように、今のときだからこそ広く目を開いて、静岡を外に発信しようという気持ちが込められていて、私は世界に羽ばたけるかどうかは別として、何か夢が持てるなというふうに思いました。ちょっと戦略1のところでも4つプロジェクト挙げていただいているんですが、視点として若者を育てるというか、若者が集って一緒にやっていって、それともう1つ世代間を連携してやるというような、そういう形で人の力が集まって世界に発信するというか、そういう視点もあっていいんじゃないかというふうにちょっと感じました。

もう1つは質問で、世界の求める価値づくりというのと、やっぱり世界標準だとか特許だとかという、そういう戦略みたいなことまで考えてしまうんですが、どういうようなところまでお考えでこういうプロジェクトというのを提案されているのかどうかというのをちょっとお聞きしたいなと思います。

○佐藤会長 今の小野寺さんの御質問に対して何かあります。

○日詰委員 最初の戦略1のところですね。人の問題、人のことなんですけれども、これは今、小野寺さんの御指摘になった、若者の視点とか世代間連携というのは、この1、2、3、4のある程度のところにまで入ってくる横断的な課題かなと思いますので、そのあたりは恐らくそれぞれのプロジェクトのところでも入ってくる可能性はあると思います。

それから2つ目の、新しい価値づくりということなんですけれども、確かに世界標準というのはあるんですけれども、むしろ今ある静岡の潜在性というものをいろいろな形で磨き上げることによって世界と伍するようなものにしていくという、その5年間にできるんじゃないかという、そういう期待を込めてあります。ですから世界標準でなければならないということではなくて、今世界標準になかったとしても、世界を見据えることによってこの静岡にあるいいものを磨き上げていくということによって、世界を視野に置くというような、ランディングの期間というふうに言いましょうか、そういうふうに私どもはとらえているわけなんですけれども。岩崎さんもし何かありましたら。

○岩崎委員 今委員長からお答えいただいたとおりだと思います。世界が求めるというのと、確かにニュアンス的には世界交流みたいなイメージがありますので、世界に誇れる価値とか、そこら辺

検討は必要かなというふうに思っています。

○佐藤会長 ありがとうございます。委員の皆さんの御意見を伺いながら、せっかく専門委員の方々もおいでいただいておりますので、専門委員の方との意見交換もしながら進めさせていただきたいと思います。

○青山委員 今、世界のことで議論になってますけども、当然世界に目を向けなければいけないレベルのものもあると思いますし、特にこの中で中山間地域の活性化プロジェクト、この辺は今の中山間地域の実態を見ると、世界というよりもあしたをどうするかという世界と思うんですね。という意味は、お茶は非常に価格が低迷してる中で、荒廃畑が非常に多くなってるという中で、じゃあ世界なのかということを経元の皆さんに話ししてもぴんとはこないと思います。そういう意味で、世界に向けなきゃいけない部分と地元でしっかりやらなきゃならない部分と、そこは少し整理したほうが皆さんに理解ができるんじゃないかなというように思います。

○澤野委員 私もこれを見せていただいた中で、やはり世界という言葉がどうも引っかかってしまう。今静岡市お茶のまちづくり推進協議会でもメンバーに入らせていただいておりますけど、先ほど言われた委員の方にもお茶の問題については非常に厳しい状況になってるということを経元も初めて知ったんですけど、そういうことを考えますと、やはり世界の前に、先ほどお話のあった日本一を目指すということで、将来的には世界なんですけど、日本一を目指すというターゲットでいくのがよろしいのではないかなというように感じております。

○佐藤会長 ありがとうございます。どうぞ。

○岩邊委員 世界につきましては皆さんいろいろ発言をしておりますけれども、私も概ね皆さんと同じような考え方を持っております。前回、13のプロジェクトについて今回11に絞られて、さらに項目別に3つの戦略に整理をできたということについては、大変わかりやすくなったんじゃないかと思っておるところでございます。この戦略プロジェクトに基づいて、それぞれ所管がこれから計画策定をしていくことになると思いますけれども、先ほど市長の話にありました、総合計画に載ってない事業については、いわゆる実施をできない。そういうことになってしまうと、せっかく所管がつくったりっぱな事業を計画に載ってないからできないとかということになるから、何とか2次総の中ではやりたい事業について網羅をしておいて精査をしてきたいというお話がございました。

私も2次総をつくる前に、限定してカットしないで、できれば所管がつくったいろんな構想について盛り込んで、実施の時点で何とか整理をしていくというお考えに対して賛成をする立場ですけれども、その辺で意見を一言申し上げておきたいと思っております。

○佐藤会長 ありがとうございます。どうぞ。

○須藤委員 13を11にしたということで、それをまた3つに分けたということで、いろいろ今の説明でわかるわけですが、いろいろなことをやろうとするとき、あくまでも基礎がしっかりしてないとできないですね。やっぱり財源とかそれぞれそういう基盤がしっかりしてないと物事は進んでいかない。5番が抜けたということに対して、ここに書いてあるように、政策本位の都市経営に必要な地方制度の確立に向けて、自治行政権、あるいは自治財政権、自治立法権の充実強化を図る。私はこの13の中で非常にしっかりと足元を見た政策が1つ入ってるなということで、そうとらえていたんですけど、これを抜いたという点についてはちょっとそぐわないということなんですけども。

実は8月25日の朝日新聞の朝刊にあったんですけども、08年の一般会計決算の速報値が出てまして、08年については黒字あるんですけども、経常収支比率が3.6%悪化してるというような記事が載ってまして、そういう意味では財政収支の悪化については、人件費削減や国の補助金の見直しといった行政の努力を積み上げていくしかない、ということで非常に静岡市の財政厳しいですよ。しっかり行革をしてかなきゃならない。市長も先ほど非常に厳しい、時代がいろいろ厳しい状態で動いているということから、そういうこともしっかりと確認していかなくちゃいけないだろうと思ってるんですけども、5を抜いたということがなかなか私としては理解できないところなんですけど、説明をお願いします。

○日詰委員 私たちも前回の資料の5番目ですけども、地方分権推進プロジェクトというのは、非常に大事なプロジェクトだというふうに受けとめておりました。ただ、全体の計画の戦略をつくっていくときに、なかなかこの問題というのをどのような戦略の中に落とし込めるかなということを皆さんで議論したんですけども、なかなか落としどころが難しいわけです。ただ、とはいっても地方政府というのは今、地方分権改革推進委員会のほうで打ち出した非常に大きな枠組みでありますので、それを踏まえるということは前提にしないといけないということですので、それはなかなか戦略の中からも削除することはできないということで、苦肉の策といたしまして、ちょうど2枚目の左上のところに青い囲みがございますけれども、その中に自立都市の基盤を確立するといったところで、地方政府の確立に向けた基盤を確立していくといったところに、ここにちょっとうすまってしまったんですけども、入れさせていただいているわけがあります。

特に戦略3というのは、地理的な特性をメインにした戦略、ないしはその戦略を実現するプロジェクトというまとめ方になっておりますので、あくまでもこの地方制度を確立するということ

は、どの戦略にもかかわってくるところでもありますので、もう少し包括的に、より上位の概念という形で置ける方法は検討しなければいけないなということは考えておりますけれど、今のところ原案の段階としてはここに、座り心地がいいということではないんですけれども、一応置かさせていただいているということでございます。

○須藤委員 わかりました。

○佐藤会長 ひとまずよろしいでしょうか。ほかの委員の方どなたか。

○上利委員 戦略1から3までのところを見て、どうもぴんとこないというのはどうしてなんだろうということはずっと考えてた。左側の青で書かれているテーマですね、これは私はよくわかって、今の時代に必要とすることだと思えるんですね。この3つ書いてあるやつで交流と価値創造と自立都市、これ非常にいいことだと。これはすごい立体感がある。今ホットな感じがするんですよ。ところが戦略のところに行くと、今までやってたのと同じような平板な感じがしてしまう。さらに右側に、部門別とかそういうがあるので、具体的なプランに流し込むときに、今までのことがどうも頭にあってそちらに行ってるんじゃないかという、戦略のところをもう少し左側のテーマのところを本当に今必要とされてるのは何だろうか。子どもだ、長寿だ、自立だとかということではないような形で何かもし書かれれば、左側は生きてくるんじゃないかと、こういう印象を持っています。ただ、こういう印象だけ言っただけではいけない、もっと建設的な意見を言おうと思ってどうすればいいかなと思って考えてたところでした。とりあえずそういうことです。

○尾崎委員 今までの繰り返しになるかもしれませんが、私もやはりこの「世界」という言葉にひっかかりました。「世界」という言葉は、ロマンを感じさせます。戦略Ⅰのところは「世界に羽ばたく人づくり」ということで、世界に向けての人づくりということで、共感を持てます。人材育成は「世界」という言葉を使っていいと思います。ですが、戦略Ⅱ、戦略Ⅲの部分では「世界」という言葉で括らないほうがいいと思います。

○佐藤会長 専門委員会の皆さんが知恵を絞っていろいろ提起していただいているわけですが、肝心の一番のキーワードの「世界」が、あまり委員の皆さんの中では理解してもらえないという感じなんです、各専門分野の委員の方で、キーワードの問題でも何でも結構ですから、お話いただければありがたい。松平さん何かありますか。

○松平委員 世界についてはまたほかの委員の方が言われると思いますので、私は先ほど佐竹副会長が御退席なさったんですが、ちょっと時間がないということで。あのとき発言すればよかったのかなと思うことをちょっと発言をさせていただきたいと思うんですけれども。

専門委員として私は健康・福祉分野を委員の方の原案を一緒につくらしていただいている、今

どういふふうな、すり合わせの問題なんですけども、どういふふうな作業中かということなんですけども、実際に中施策ができて、私たちも具体的な事業というものをイメージするわけですよ。例えばDVの被害者を保護するだけじゃなくて、加害者の側に対する矯正プログラムなんかもやらないと繰り返しになるから、具体的な事業をイメージするわけなんですけども、中施策まではつくって、そのあとは各部門に投げて、それで事業出しを待つという状態ではだめなのかなというふうに思っています。

例えば総合計画の第1次のときの87ページを見ていただきたいんですけども、障害がある人の自立を支えるシステムの構築というところなんですけど、一番下に中施策としては障害がある人の雇用と就労の支援。二番として障害がある人に生きがい施策の充実というのがあると思うんですけども、具体的な事業としてここに紹介されているのが、全国障害者スポーツ大会派遣ということになっているわけですね。じゃ、雇用と就労の支援をしてないというと、全然そういうことではなくてしてるわけだし、障害がある人の生きがい施策なんかを社会福祉協議会なんかも一生懸命やってるわけなんですけども、具体的に乗らなかったんですね。

今私たちの分野の原案検討会議では、こういうことが出ないようにということで、今実際に各部門がもう既に行っている計画と、それから行おうとしている計画と、今私たちが立てた中施策に何もぶらさがらないものということ分けて、緑と黄色と青に分けて、それで洗い出しをしたばっかりなんで、すり合わせというところは本当に私たちも必要だというふうに感じてまして、向こうに事業をお願いしてしまうと、これはできない、これも難しいというところから始まっちゃうもので、逆にこういう事業をしてもらいたいんですけどもということを持っていったほうがいいのかなというふうに考えてます。

そのためには、例えば専門委員が行って各部門と話をしなきゃいけないのであるならば、それもしたほうがいいのかなというところまで今、原案検討会の中では話が出ていることになって御説明をさせていただきます。ありがとうございました。

○佐藤会長 ありがとうございました。世界の話だけじゃなくて結構なんですけど、川口さん何か。

○川口委員 私には世界というものに対してとらえ方なんですけれども、ヒエラルキー、段階的な視点での世界というとらえ方をするのではなくて、基本的な、今これから厳しい世界を乗り切っていくときに、目の前にある対応というものは確かに非常に大事だと思うんですけども、その検証によって、今起こっている大変な問題というものに対して、大きくある種今流行の言葉なので言いたくないんですけども、変化とかそういったことが大きく目の前に起きているときに、ある種の視点の転換をする際に、唯一無二という形を考えた場合に、段階をイメージさせる日本です

とか、そういう地域、地方ということをもう少し大きく取り払って、思い切って世界という形でも、今の時代で非常に厳しいからこそあっていいのではないのかというふうに感じて、専門委員会等でもそういう考え方でありました。

これも言い古された言葉ですけれども、平和という形の中で、平和というところの対象はどこといったときには、日本でオンリーワン、そういう視点だけではなくて、もう少し広い視野で見たら、本当に静岡の中山間地の魅力というのは、日本一どころでなくともっと発信できるものというところの視点をもう一度思い起こしていただいて、どうしたらいいのかといったところを考えていくような道筋ができるといいなというふうな思いを持って、世界というものに対して、いいんじゃないかというふうに思っております。

○佐藤会長 どうも失礼しました。今委員の皆さんからそれぞれ御発言いただいたんですが、市川さん以下、専門委員の皆さんの御意見を聞きながらお感じになるところを。

○市川委員 今このテーマの選択の中で、世界ということに対して大変皆さんが熱くなっておられるんですけど、私はそれは五十嵐さんがおっしゃったについては、ちょっと目標が大き過ぎるかというようなお話でしたけれども、じゃアジアならいいのか、ということを考えているのかというと、これまた違うわけですね。

だからそういうことで今いろいろと討議されてるんだということではなくて、ここに書いてある戦略Ⅰで1から4番、戦略Ⅱで1から3番、戦略Ⅲが1から4番、これだけのつまり抽出したのに対してのまちづくり、これを考えていく。

そこで今、中山間地の問題が出ておりますけれども、これは非常に静岡市としては重要な問題だろうと考えておりますけれども、それと同時に、先ほどこの前のあれでもって、私どもの関係のタウンミーティングの中で、連合自治会にもっと権限を与えてほしい。それから自治会連合会をもっと活用したほうがいい。連合自治会の近代化が必要だ。こういうようないろんなテーマが出ておりますけれども、これ総合してみても私の考えていることは、今まで旧態依然の形でもってそうした地域に対してのいろいろとアドバイスしてまいりましたけれども、今考えて、ここに3つ出ておりました。これを総合して、自治会というものを根本的にここで考え直さなきゃならない。

そこで今言った1つ、2つ、3つの戦略に結びつけていけば、私はそれが一番素晴らしいことになるんじゃないかなと、こんなふうに考えております。ですからやはり一般住民の方々がすべて私どもの自治会というものには関与されているわけですから、そうしたものに対してもいろいろとお話をいただく、またはディスカッションしていただいて、一番いい地域をつくっていただ

くことが世界に羽ばたくことじゃないかなと、こんなふうに考えております。どうぞよろしく。

○佐藤会長 河合さん何か。

○河合委員 世界へというのが議論になってますけれど、事の内容が世界と結びつかないかといけな
いのかということ、そうではなくて一種のキャッチフレーズみたいな形で、我々が目指してい
るのは世界だよというふうな意味での世界ということでもいいのかなと。そういうふうなこととち
よっとごちゃ混ぜになってるような気がしますけれど、私は個人的な意見としては、内容が世界
動向に結びついたものでなければならないというふうに考えているわけではなくて、世界へとい
うのは一種のキャッチフレーズ的な、そういうような意味で使ってるというような意味で考えれ
ば、それでもいいんじゃないかなと、そういうふうな気がしております。

○佐藤会長 ありがとうございます。あと何か委員の皆さん、小野寺さん何かありますか。

○小野寺委員 大したことじゃないですけど、先ほど先生おっしゃったテクニックがないという、
テーマというところは夢が持てるなというか、3つの柱がきちんと立ってるなというふうに感じ
を持ってるとな気がしまして、私も思うんですけど、1個気になるのは、第1次総から活発な
交流ということが書かれてるんですけど、交流って結構難しいことですね。手法って、やること
なんだけど、目的が明確じゃないと交流ってできなくて、1次総のところの総括としても本当に
活発な交流というのがどの分野でどうできたということがあって、2次総における活発な交流と
いうのはどうあるべきかというのがあるのかなというのをちょっと思っているのが気になること
の1つで。もう1個は、テーマの世界に輝くがオクケーならば、戦略Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、世界へと
か、世界がとか世界にというのを取ってもいいんじゃないかって思います。だから戦略Ⅰは、羽
ばたくはちょっとまずいかなと思うので、輝く人づくりとか、戦略Ⅱが求める価値づくりとか、
Ⅲが魅せる地域（まち）づくりとか、テーマのところだけ世界を冠して、あとはそれがなくても
身近に感じられるような形にできるんじゃないかなというのが、提案というか意見です。

○佐藤会長 ありがとうございます。五十嵐さんの御発言をきっかけに、キーワードの「世界」
をめぐっていろいろ御意見いただいたわけですが、私は先ほど川口さんがおっしゃったよう
なニュアンスで、これはこれで貴重な、非常に大事な視点で、これから静岡のまちづくりをどう
構築していくのかという場合のキーワードとしては、そう違和感がないと思うんです。最初に口
火を切った五十嵐さん、いかがでしょうか。それでもやっぱりだめですか。

○五十嵐委員 私は世界とかアジアとか中国ということじゃなくて、ある意味では市民の皆さんが、
これからこの計画に対して、みんなが期待をして、それに向かって役割分担をしつつそれに向か
うというふうなことのために、ある意味じゃ世界に輝く『静岡』の創造というのは、今回の基本

計画のテーマなもんですから、ここに対して何十人かいる委員さんが、違和感があるといやだなというのが1つありました。私は今言ったように、基本計画だからあまりここでテーマ設定というのは格好つけることはないじゃないかと。やはり地道な行政、市町村ということになると政令市としての静岡市が最後の受け皿になるのがここですよという意識の中で、やはり夢というよりも地道に向かうべきじゃないかと。夢でやるなら構想を変えたほうがいいじゃないかみたいな感じが若干あったもんですから、皆さんに御議論をいただいて、次回の3回目に対して、このテーマはもう一切触れないというふうに考えていただければ結構だと思います。

○佐藤会長 松浦さんいかがですか。

○松浦委員 政令市・静岡は広域で農山漁村あり、豊かな自然に恵まれて、歴史ある伝統と文化、バランスがとれた産業など一つの小さな国を想定できる、そういう政令市なんですよ。地方分権を進める中でこの政令市静岡、新しい形の政令市の第1号ですから、これをどういう方向へ導いていったらいいのか。だから世界もいいですが、まず新しく生まれた政令市、新しい形の政令市ですから、これをどう発展させていくか。日本の各政令市の模範になればいいなど、そういうふうに思っていましたんで、ちょっと飛躍しすぎていないか。やっぱり、せっかく新しい形の政令市の第1号となったんですから、ぜひ今後他のモデルになる、そういうまちづくりができたらしうことを願って申し上げました。

○佐藤会長 時間の関係でいいますと、世界をめぐる議論だけで終わりそうで、少し心配なんですけど、それ以外のところでも若干時間をいただいて御意見いただきたいと思います。きょうの懇話会、世界だけで終わるとするのは司会としては気がひける感じがしますんで、別の中身のところで御意見いただければありがたいですが、いかがでしょうか。

○河合委員 プロジェクトの中でほかのは題名を聞くと大体見当がつくんですけど、シティプロモーション推進プロジェクトというのは何だろうかというのが、題を聞いただけでちょっと内容が頭に浮かばないわけで、シティプロモーションというのは市が発展をするためにやるべきことを推進しようというような意味だとすれば、全体が全部シティプロモーションじゃないかというような気がしますので、シティプロモーションというのは、どういう分野を受け持つプロモーションなのかということがちょっとわかりにくいような気がします。

○岩崎委員 ここで言うプロモーションというのは、情報の発信ということで、静岡の文化・生活・産業にかかわる素晴らしい情報を積極的に発信しよう。とともに情報を受信すると、そういった情報のやりとりが静岡に、今まで都市に弱いという面がありましたので、積極的に発信していこうということで、一般的なプロモーションというと、製品とか産業でよく使われますけど、

それだけでなく、静岡そのもののよさの発信を積極的にしていきましょうというような意味合いで、プロモーションという言葉をとらえております。

○佐藤会長 あといかがでしょうか。時間があまりありませんが。

○五十嵐委員 世界に輝くはやめますので、ちょっと質問を。

戦略の中に1、2、3、4とか、3とかいろいろひと、かち、まちあるわけですが、未来を開く子どもプロジェクトというのございますね。この一連の戦略ということだもんですから、ターゲットとして、例えば5年間というとらえ方なのか、5年間じゃいけないわけですので、ある1つの戦略としての文言というかな、そういう従来の形なのかその辺をどういうように、行き姿というのをお考えなのか。ちょっとそこを。

○佐藤会長 1つの例、専門委員の方どなたか。

○日詰委員 今、一つ一つのプロジェクトについては検討を進めております。もちろん五十嵐さんおっしゃいますように、5年間でやらなければいけないというものは当然あると思うんですけども、その5年間で出来上がったものが実は10年、20年につながっていくという側面もあるんだろうと思うんですよね。基本的には5年間でやり尽くすみたいな、あるいはやり遂げるといようなものはやっぱり現実に考えていかないといけないと思います。

○佐藤会長 だんだん時間がなくなってきました。もうお一方、御意見いただければと思います。いかがでしょうか。上利さん何か

○上利委員 この戦略Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを組み替えるというような提案というのはちょっと破壊的ですから、私が思うのは、戦略Ⅲという、要するにまちづくりじゃないですか。これはつまり静岡をどうつくろうかということだから、これが基本的なベースになるわけで、そのために何をやるかというときに、人と価値を新しく見直そうと、こういう話になってる気がするんですよ。戦略Ⅲの中に、例えばネットワークづくりプロジェクトってあるんだけど、これって結局交流をしましょう、特に例えば人の交流をどうつくっていきましょうかというところと関係すると思うんですよね。2の市民が誇れる美しいまちづくり、これ戦略Ⅱの価値づくり、美しい自然とかそういうものをどういかにするかという話になってるじゃないかという気がするんですよ。そうすると、さっき私が言った青いほうの、左の交流をどう進めて価値をどう新しく見直す、つまり近代化の中でどう経済的に潤うかとか、そういう話ではない、新しい価値をどうつくっていくかとか、そういうふうなものになって、それが整ったときに自立都市というのが見えてくると。

とすれば、例えば戦略Ⅰに人づくりというときに、どうやって世界との、空港もそうだしネットもそうだけでも、そういう世界を見据えた人をどう育てていくのか。だからここで未来をひら

く子どもというよりも、子どもに世界を感じさせながら、どうこのまちで生きていくような、そういう人材を育てるかとか、そういうふうには、私は戦略は2つでいいんじゃないかという気がしてるんですけど。

例えば戦略Ⅲの3、地域活性化プロジェクト、ここは産業の面ではどんどん衰退してるように見えるけども、別の視点から見るとすれば、よく言われた例でわかりやすいから言いますが、スローライフ云々とか、自然と共に生きる姿とか、そういう新しい価値というものを見つけていこうとするとき、この戦略Ⅲの3が生きてくるとか、そういふふうになってくるんじゃないかなと。というふうにして、さっき私が、どうやれば建設的になるかなというふうな、戦略Ⅲを消して、むしろまちづくりをするためには何が求められているかということをもう少し戦略ⅠとⅡで新しい視点を入れたらどうかというふうには思ってるんですが。意見です。

○佐藤会長 そろそろ閉じたいと思うんですけども、せっかく御出席いただいている専門委員の猿田さん、水谷さん御意見があれば、いかがでしょうか。簡単に。

○猿田委員 いろいろと御意見賜りまして、世界というあたりの違和感というんですかね、こういうものについても、当初から専門委員の中でもありました。あるいは他の各論的な計画づくりというのとどういふふうに折り合いをつけるかというふうな先の話についても、私自身もある協議会でいろいろと検討していく中で、総合計画とはどういふふうにも実際的な疑問といえますか、そういうのがありますので、きょういろいろと伺ったことというのは私個人の思いと随分重なるものでございまして、それを今後どういふふうにしていくのかなというふうには、あるいは戦略Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは多少平面的じゃないかなというふうなこともありまして、今後これをさらに具体的なものとして、何よりも市民の方にわかりやすくしないといけないということがございますので、ぜひともお知恵を今後ともいただきまして、よりよいものに仕上げていけるように御支援いただきたいと思います。ありがとうございました。

○佐藤会長 ありがとうございます。水谷さんいかがでしょう。

○水谷委員 この懇話会の皆さんでこのお話をなさって、どういふふうを考えていくかという問題も言いつ放しになるのかなって思ってたんですけども、実はきょう出された意見はほとんどは専門委員会の中で出てる意見ですね。世界という言葉の違和感とか、プロジェクトの名前とかですね、もっと住民を大切にしたらいいんじゃないかと、私が聞いた中ではほとんど専門委員会の中で出た意見で、それなりに消化してこのプリントはつくっているんですけども、さらに本日皆さん方から御指摘いただいて、やっぱり同じように感じるんだと、同じような意見をもって、場合によっては違和感があり、あるいは理解できないということを再確

認したわけですね。

どなたかおっしゃったように、今は策定過程なので、そういうものもあってもいいと思うんですが、最終的に出来上がったものはそういうものであってはいけないというか、そういうものではないものを最後の最後まで目指すべきだというふうに思っておりますので、私が専門委員会の中で言った言葉と全く同じことをおっしゃった方が何人かいらっしゃいますし、ここでいただいた意見を本当の意味で専門委員会のほうにも持ち帰らしてもらって、もう一回私たちは話し合っ、中間的にこういうようにまとめたんだけど、やはりこういうような御意見があるということをも踏まえて、最終的には皆さんの中でいいものがまとまったねというところに向けて、引き続き努力をしていく方向だというふうに思いまして、私非常に気を強くしたということでもあります。どうもありがとうございました。

○佐藤会長 第2次総合計画について委員の皆さんからお出しいただいた御意見や、全体としてお示しいただいたご発言では、計画の中身は市民感覚からすればやや違和感があるかなといった、あるいは離れているかなということのようでした。しかし、今の水谷さんの話で、専門委員会の中でも似たような、それと同じような意見が交わされたという話を聞いて、専門委員の皆さんの意識も、市民感覚とそうずれてないところで議論しているということがわかり、大変安心しました。今日、委員の皆さんからいただいたご意見をこの先の専門委員会での議論に反映していただいて、ごく普通の市民の感覚で見ても、あるいは読んでもぴったりくるような、違和感を感じさせないような、そういうものに仕上げてくださいよう、引き続き御努力をお願いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

それではその他ということで、事務局のほうで何かございましたらよろしく。

○経営企画課長 お手元にお配りしました総合計画懇話会のスケジュールを御覧になってください。次回第4回目の会議でございますが、21年10月16日金曜日午後2時から。第5回は同じく10月27日火曜日の午後2時からと2回に分けて、今度は中間素案のまとめになります計画書の文章化案について御議論いただくのを予定しております。資料につきましては10月上旬に発送させていただきますのでどうぞよろしくお願いたします。会場はここ8階の市長公室、同じ場所でございます。以上でございます。

○佐藤会長 それではよろしければきょうの会議これで終わりにしたいと思います。

○経営企画部長 本日は御多用のところ御出席を賜りましてまことにありがとうございました。これを持ちまして第3回第2次静岡市総合計画懇話会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

